

2011年11月29日

非血縁者間骨髄移植・採取認定施設  
移植認定診療科連絡責任医師 各位  
採取認定施設採取責任医師 各位

(財) 骨髄移植推進財団 医療委員会

### 骨髄液輸注中にフィルター“目詰まり”が発生した事例について（ご報告）

この度、骨髄液輸注中にフィルターで“目詰まり”が発生し、骨髄液残り100ccを輸注できなかった事例が発生いたしました。原因は凝血塊やマクロアグリゲートなどによる目詰まりが考えられますが、今後も発生し得る問題と思われるため、情報提供をいたします（詳細は別添資料をご参照ください）。

各施設におかれましては、以下の点にご留意の上ご対応くださいますよう、よろしくご報告申し上げます。

#### <骨髄液輸注中に輸血フィルターや輸血セット刺入部分に目詰まりを生じた場合の対処について>

- 原因：凝血塊やマクロアグリゲートなどによる目詰まりが考えられます。
- 対処方法：一旦輸注を中断し、新しい赤血球輸血セットを用いて、無菌的に新しい空の輸血バッグに、目に見える凝集を避けながら移し替えてから輸注を再開する事を推奨します。尚、新しいバッグに移し替える操作の際には無菌接合器を使用し、クリーンベンチ内で実施して下さい。

以上

以下は移植施設からの報告です。(全文掲載)

10/● 骨髓輸注の経過をご報告いたします。

2011年10月●日 0時12分 3パック目を主治医にて接続。BP184/110、フロセミド1AIV 骨髓液は200ml/hrで投与。

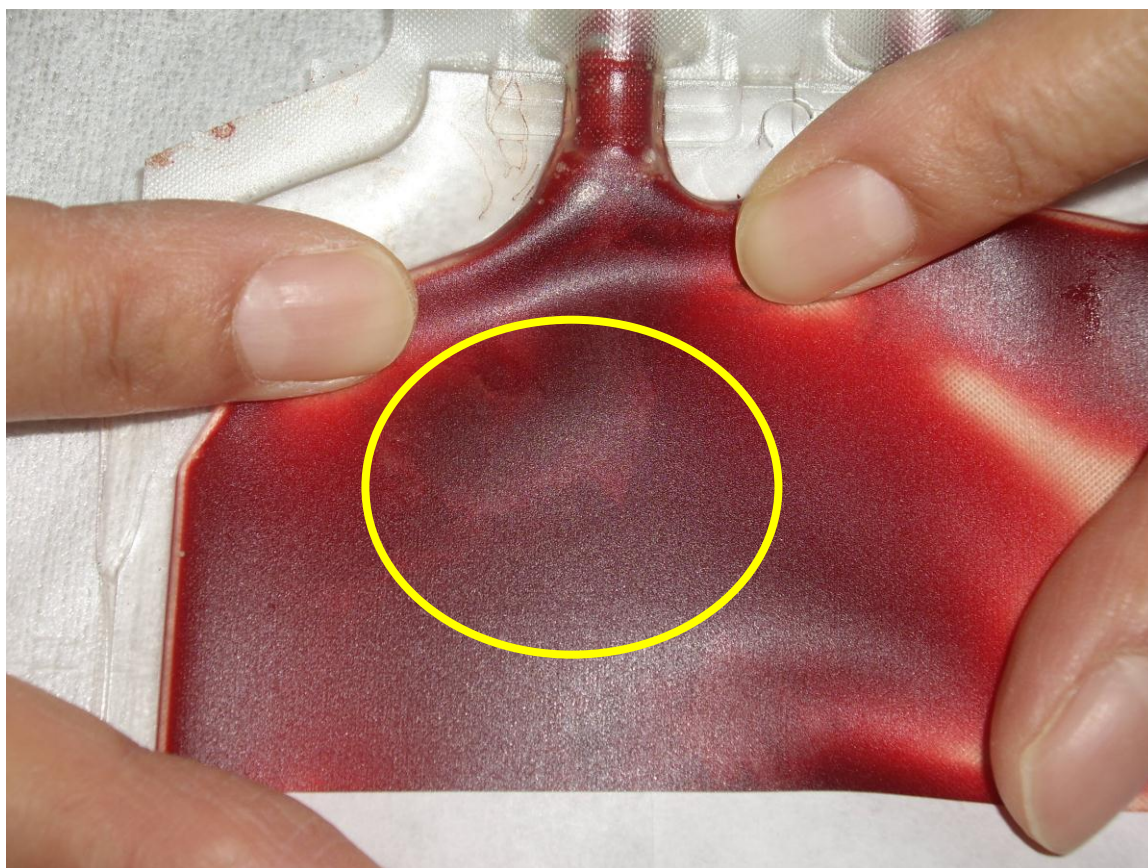
1時 30BP200/120 mmHg、嘔気増強、前胸部不快感訴える。尿潜血 3+、肉眼的血尿、ハプトグロビン投与開始、セパミットR1カプセル内服。

1時45分 嘔吐あり、一時骨髓液輸注を中止。ルートは生食でキープ。

2時30分 嘔気軽減、BP176/110

3時15分 BP160/90mmHgに低下しているため、輸注再開しようとするが、全く滴下せず。フィルターづまりあり。Drにて輸注ルート交換するもフィルターつまり滴下せず、末梢点滴部を刺しかえて、ルートを生食で満たしたのち、輸注バッグに接続するも滴下せず。輸注バッグ内には約100ml弱の骨髓液が残っていたが、輸注は断念。

輸注ルート(輸血用)2本、三方活栓、延長ルート1本、10ml注射器1本、輸注バッグ(骨髓液あり)のすべての重量は225g



輸注できなかった残骨髓液中に認められた凝集塊①



輸注できなかった残髄液中に認められた凝集塊②